



# スポーツイベントと持続可能性

SUSPON Youth 代表 井関 将人

## 若手の声で東京2020大会をよりサステナブルに スポーツ、文化、環境分野でプロジェクト進行中

### 大会を通じサステナビリティ を共通価値に

「スポーツ・文化・環境を柱とするメガスポーツイベントを通して、『サステナビリティ』を次世代共通の価値に」

これが「SUSPON Youth」がたどり着いた2020年に向けたビジョンです。

さまざまな分野の第一線で活躍する20代、30代の若手が、東京五輪・パラリンピック（東京2020大会）を契機に実現したいことにサステナビリティ分野から力を貸すことにより、若手世代が「サステナビリティ」の理念を中心にして集まっている構団を作り出すことが狙いです。

現在、ベンチャースポーツ（メジャー、マイナーの枠組みにとらわれず、競技の普及意欲を持つ競技団体を有するスポーツ）の普及活動を行う「V Sports Project」、「オリンピック・パラリンピックを学生みんなで盛り上げよう」をスローガンに大会への若者参画の入口となっている「学生団体おりがみ」などが加盟・協力団体として、このプラットホームに参画しています（図）。

各分野の団体や個人は実現したい

プロジェクトを実行していますが、そうした活動にプラットホームとしてのSUSPON Youthが協力することで、サステナビリティ分野に多くの若手が集約されていくような格好になっていきます。また、各プロジェクトに協力する過程で、「持続可能性への配慮」を盛り込むこともSUSPON Youthとしての役割です。

こうしたプラットホーム構築に行き着いた経緯を、少し時間をさかのぼって説明します。

### 世代を超えて受け継いだ精神

2017年4月、筆者が当時所属していた青年環境NGO「Climate Youth Japan (CYJ)」はSUSPON（持続可能なスポーツイベントを実現するNGO/

NPOネットワーク）に加盟しました。先に加盟していた「A SEED JAPAN」とともにSUSPON Youth（ユース部会）を立ち上げ、筆者が代表に就くことになりました。

CYJは、SUSPON加盟前の2016年8月から、東京2020大会に向けた活動「Sustainalypics（サステナリンピック）事業」を続けています。お世話になっている地球環境戦略研究機関(IGES)の藤野純一氏から「東京2020大会の持続可能性分野が盛り上がっていい。ユースからも後押ししてほしい」と提言していただき、同大会に向けた活動を開始することになりました。

Sustainalypicsは、「Sustainability」と「Olympics・Paralympics」を掛け合

図 「SUSPON Youth」の構成と加盟・協力団体（2019年3月時点）

<b>スポーツ×SDGs</b>  V Sports Project   I LOVE SKATEBOARD SHIBUYA	<b>文化×SDGs</b>  担当:田中喬祐  ※SUSPON Youth・ えびす屋人力車 共同事業	<b>環境レガシー</b>  学生団体おりがみ 環境部   Climate Youth Japan (CYJ)	<b>ユースエンパワーメント</b>  Project Y-ELL 2020 実行委員会   学生団体おりがみ
---	---	--	---

※ SUSPON Youthには各分野の第一線で活躍する若手が集まっている



昨年末のCOP24で、東京2020大会のカーボンフットプリント算定に関する課題を発表するSUSPON Youthメンバー＝ポーランド・カトヴィツェ

わせた造語です。東京2020大会やその後も続く五輪・パラリンピックが「持続可能な大会」となることを目指すような名前をメンバーと考えた結果が、この造語となりました。

当時は、東京2020大会の「持続可能性に配慮した運営計画 第一版」が作成され、第二版に向けた議論が、同大会組織委員会の下に設置された持続可能性・街づくり委員会で進められている最中でした。政策提言を活動の中心に据えているCYJでは、第二版策定に向けた議論に次世代からの声を届ける活動を展開していました。

その後、2016年12月、前出の藤野氏の紹介で、持続可能性・街づくり委員会の小宮山宏委員長（三菱総合研究所理事長）と面会したことが、のちのSUSPON Youthを形作る原点になりました。

小宮山氏からは「若者の中で数をそろえること。それが物事を動かす原動力だ」との言葉をいただき、筆者の考えは一変しました。

政策提言を通じて若手のビジョンを描いていくことは、重要なステップの1つです。しかし、2015年に「持



SUSPON Youthは2016年12月、東京2020大会組織委 持続可能性・街づくり委員会の小宮山宏委員長（右から3人目）と面会した。右端がIGESの藤野純一氏

続可能な開発目標（SDGs）」と気候変動対策の国際的な枠組み「パリ協定」が採択されたことで、世界のビジョン形成は一巡しています。

そうした中で求められるのは、描いたビジョンをどのようにして実現するか、実行プロセスを示すことです。そこでは「イノベーション」がキーワードになります。SDGsやパリ協定が掲げる目標の実現を目指すには、あらゆる業界や社会課題の分野でイノベーションを起こす必要があります。さまざまな分野で起きるイノベーション事例が、やがて1つの中心軸に吸い寄せられるようにして次の時代の価値基準が定まっていくと考えています。

### 水面下で進行するプロジェクト

SUSPON Youthでは、政策提言を軸とした従来のプラットホーム活動から、具体的なアクション・事業創出の支援を軸としたネットワーク形成を目指しています。現在、SUSPON Youth内のスポーツ、文化、環境の各事業部では、水面下でプロジェクト実現の準備を進めています。

例えば、スポーツ分野では、東京

2020大会の新種目サーフィンを取り上げ、競技観戦を楽しむためのポイントを情報発信するためのデモンストレーション企画を実施すべく準備を進めています。サーファーは競技のステージとなる海への想いが強く、近年話題となっている海洋プラスチックごみ問題に対するアクションにも積極的です。東京2020大会を通じてサーフィン競技の人気も上昇することでしょう。その際、サーファーを通してサステナビリティへの注目度も高まることを狙っています。

ほかにも、「SDGsマークを背負った車夫が移動困難者（高齢者・車いす利用者など）を人力車で運ぶ」「持続可能性に配慮した木材でランプを製造し、練習場を失ったスケーターの新たな居場所を作る」など、各分野の課題やニーズとサステナビリティをつなげたプロジェクトの準備が進行しています。

進行する各プロジェクトの紹介は今後、SUSPON Youthの情報媒体を通じて発表していきたいと考えています。ご注目いただければと思います。■